

市区町村名	北海道恵庭市	担当部署	教育部 読書推進課
		電話番号	0123-36-1545
		所属メール	dokusyasuishin@city.eniwa.hokkaido.jp

1 取組事例名

図書館分館の手のひら認証によるセルフ貸出及び一部無人開館の実施

2 取組期間

令和2年度～

3 取組概要

- ・駅前複合施設内にある図書館分館の集客力を高め、まちの賑わいづくりを創出する。
- ・一部無人化により開館時間を拡大し、いつでも、誰でも気軽にあらゆる年代の方にストレスフリーに利用される図書館を目指す。

4 背景・目的

- ・平成30年度に現在地の複合施設に移転した図書館分館は、移転前より狭隘化したことにより、市民から以前のようにくつろいで読書ができるスペース確保の要望が出されていた。
- ・そこで「利用者カードを忘れても利用可能（カードレス貸出）」、「窓口業務縮小による司書業務の充実」を目指した取り組みを行った。

5 取組の具体的内容

- ・図書館分館の全ての蔵書にICタグ貼付けのうえ、無断持出防止装置（BDS）、セルフ貸出機、手のひら認証システムを導入し、令和3年3月に稼働。
- ・令和4年4月より、9：00～9：30、17：00～19：00及びそれまで休館日であった月曜日を図書館職員不在の無人開館とし、令和5年4月から複合施設の開館時間である22：00までの開館とした。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・人材不足や外部委託費の増加といった課題を解決し、開館時間を延長してより多くの市民に本に親しんでもらう機会を提供するために、複合施設の利用者を取り込み「ふらっと寄って借りられる」仕組みを考え、図書館の新規利用者の開拓や貸出冊数及び入館者の増加を目指しました。

7 取組の効果・費用

- ・複合施設内であれば貸出手続きをせずに図書館の蔵書を持ち出して読書を行うことが可能となった。
- ・手のひら認証システムにより、利用者カードを持たずに何気なく立ち寄った場合でも貸出ができるようになった。
- ・セルフ貸出機の導入により、窓口職員が貸出業務に費やしていた労力が軽減され、利用者からの調査依頼（レファレンス）や読書相談の時間を捻出しやすくなった。
- ・費用総額は、36,766千円
(市子育て基金7,290千円、市青少年文化振興基金19,476千円、図書館振興財団助成金10,000千円)
- ・利用者が1.2倍に増加。想定より早く浸透していることに加え、子どもが楽しんで利用している。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・手のひら認証、無人開館ともに北海道では初の取組みであったこともあり、導入効果や期待通りの課題解決方法であるのか、不安も多い中、成果につなげるための実施計画を実現させるための複合施設管理部門との調整に苦労した。

9 今後の予定・構想

- ・市内他館においても、同様の取り組みが行えるか検討中である。
- ・ICTに苦手意識のある方にも、図書館が端緒となることで、今後の行政サービスを進んで利用できるような環境づくりを目指していきたい。

10 他団体へのアドバイス

- ・複合施設内に図書館分館が移転したこと、感染症予防のため人との接触を減らす必要があったことから生まれた課題を解決するための事業は、子どもたちも楽しんで使える、誰もがより利用しやすいサービスになりました。課題解決により私たちのように想定を超える効果もありますので、是非チャレンジしてみてください。

11 取組について記載したホームページ

- ・北海道 Society5.0 事例集（恵庭市・図書館カードレス事業）
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/dtf/casestudies/eniwa02.html>